

# 移植後の妊よう性

妊よう性とは、男女ともに子どもを授かる力を指します



## 移植後に、子どもを授かることはできますか？



次に示すような様々なことを確認する必要があります。

- 移植後の現在の体調や内服薬が、妊娠に適した状況か
- 現在の妊よう性（妊娠するための力）
- 移植前の妊よう性温存療法

一般的な推奨としては、移植後少なくとも2年間(※)は、自然妊娠や不妊治療を避ける必要があります。

※日本造血・免疫細胞療法学会 ガイドライン 第4巻 移植後長期フォローアップより引用  
もとの病気の状態などによってタイミングは異なります

移植治療を受けた病院の医師、看護師などの医療スタッフに相談してみましょう。



## 移植後の妊よう性とは？



- 移植患者さんは、男性、女性ともに、抗がん剤や放射線などのこれまでの治療に伴い不妊となるリスクがあります。
- 妊よう性温存をしていた場合にも、原疾患の状況や、治療後の体の状態、もともと不妊体質がある場合など、子どもを授かることが難しい場合もあります。
- 女性の場合、月経があっても必ずしも妊娠できるとは限りません。卵巣のはたらきが低下していたり、通常よりも早く月経がなくなる早発卵巣不全（早発閉経）が起こることもあります。
- 一方で、移植後に自然妊娠したという報告もあります。
- 男性は精液検査、女性は抗ミュラー管ホルモン検査（AMH）など妊よう性の評価のために参考にできる検査もあります。
- 妊よう性温存治療を優先することで、病気の治療開始が遅れてしまうことがあります。時間的猶予があるか、主治医、生殖医療医とご相談ください。

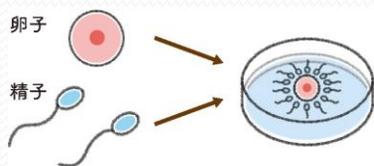
## 妊よう性温存療法後の妊娠について

凍結保存の方法によって、妊娠に向けての準備が異なります

凍結保存をした卵子（未受精卵）または精子を生殖補助医療に用いる場合

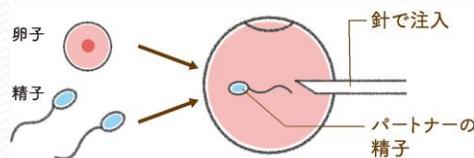
### 体外受精

（卵子に精子を振りかける方法）



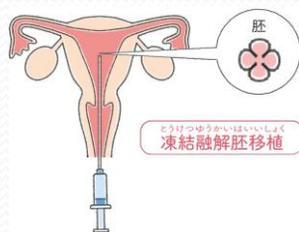
### 顕微授精

（ガラス針で精子を直接卵子に注入する方法）



このような方法で受精が確認できたら、受精卵（胚）を子宮内に移植します

凍結保存をした胚（受精卵）を用いる場合



凍結胚を融解し、  
子宮内に移植します

凍結保存をした  
卵巢組織を用いる場合

手術で再び体内に移植  
する方法ですが、まだ  
研究段階の方法です

イラスト引用元：がんwith「妊よう性温存について～がん治療前に考えておきたい将来の子どものこと」（中外製薬）

## 費用について



- 妊よう性温存療法を受けた方は、その後、凍結保存の維持にかかる費用が必要になります。
- 2021年より「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」による費用助成が開始されております。詳細は居住地の都道府県ホームページをご参照ください（利用を希望する場合、指定医療機関を受診してください）。

## 子どもをもつこと・子どもをもたないこと



- 「里親制度」や「養子縁組制度」という選択肢もあります。
- 様々な事情で家族と離れて暮らす子どもが健やかに育っていくための制度の一つです。
- 子どもをもたないという選択肢もあります。
- パートナー、医療従事者、ピアサポーターなど、いろいろな人の意見を聞きながら、考えていきましょう。